

「保護者負担軽減は積極的に取り組むべき」 中野教育長、通学バスなどの問題で上野議員に答弁

9月議会の一般質問では就任したばかりの中野敏明教育長に質問が集中しました。その中で注目すべきやりとりがいくつか行われました。そのひとつは、通学援助費、スクールバス等運行基準問題です。

日本共産党議員団の上野公悦議員は「そもそも通学に対する援助・スクールバス等の運行はなぜ行うのか。教育のあるべき姿との関連から、教育長の基本的考え方を聞きたい」と質問しました。これに対して中野教育長は、「義務教育における子どもの安全性の確保や保護者の負担軽減は、教育行政として積極的に取り組むべきものと考えており、財政の許す中で、できる限りの対応をすべきものと考えている」と答えました。また、上野議員が、「通学費の補助を受けているのと徒歩で補助を受けていないのでは不公平感があると教育委員会は保護者説明会で説明していたが、このことから『受益者負担』という考えはふさわしいのか」と追及。中野教育長は、「教育の観点から言えばふさわしくない」と答えました。



こうした答弁を受けて上野議員は、「教育長の基本的考え方が一番大事だ。市長に政策決定

権があることは承知しているが、どんな市長になろうと教育長の考え方をしっかり求めていくことが大事だ。無料化を求めていってほしい」と訴えました。（左上是上野議員に答える教育長）

なお、笹井教育部長はこの問題についての今後の日程について触れ、「年内に市教育委員会を考えをまとめ、地域協議会などの考えを聞いていきたい。有料ということになれば、3月議会に条例提案することになる」とのべました。

介護員、教育補助員の待遇改善へ



いまひとつ紹介しましょう。介護員・教育補助員の待遇改善や継続勤務年数制限の問題を取り上げたのは、日本共産党議員団の平良木哲也議員（写真）です。同議員は議員になる前は高等学校の教員でした。小中学校の教員とも交流があり、教育問題の質問は新人議員とは思えない鋭さと迫力があります。

16日の一般質問では、現場で働く職員の声を代弁して質問を展開。教育長などとのやりとりは一時間以上にもなりました。その中で、

- ① これまでなかった教育補助員への研修の機会を毎年春に全員対象に行う
- ② 年休の取り方など、設置要綱の記載の不備な点を精査し、必要に応じて改善する
- ③ 継続雇用年数については、募集の結果不足する場合や、他にかげがえのない人材である場合などについては機械的に5年で雇い止めには



【ジャコウソウ】シソ科。湿気の多い沢沿いや林の中に咲きます。葉や茎を揺ると匂いがするといいますが、私にはわかりませんでした。花は紅紫色で、長さは5センチくらいあります。写真は9月半ば、尾神岳にて撮影。

しないことを検討するなどといった答弁を引き出しました。

なお、介護員・教育補助員だけでなく、一般教員もまた、過重労働・長時間労働に追い込まれ、放置できない状況になっています。その点では中野教育長も同じ認識を持ち、原則的には、国の責任で教育定数を増やすべきであるという考えであることも明らかにしました。

平良木議員は、「もう一歩踏み込んで、市独自の政策としてその問題に切り込む姿勢をぜひとってもらいたかったが、そこまではいたら今後課題となった。現場では皆さんが毎日熱心に教育活動に取り組んでおられるので、そうした方を側面から支える役割をこれからも果たしていきたい」とのべています。

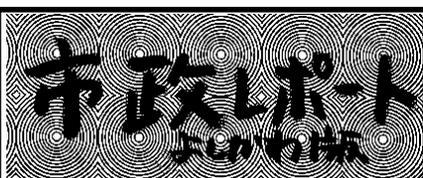


シリーズ 上越市内の橋

第10回 梨窪橋

14市町村の合併直前、2004年12月に竣工しました。「梨窪橋」と書いて「なしくぼばし」。清里区の北野と梨窪集落を結びます。橋長は約28メートル。

橋のスタイルは標準的ですが、橋のたもとには、マリーゴールド、サルビアなどの花がたくさん咲いていて、橋を美しく見せてくれます。地域の人々が大切にしている橋という印象を持ちました。



NO 1416
2009.9.27

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪法一
Tel 548-3628 (有線) 4867
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL http://www.hose1.jp/

春よ来い 第一〇八回 帰省

春に結婚し、石川県に住んでいる次男夫婦がこのシルバーウィークにわが家に帰ってきました。帰ってきたといっても今回はほんの数時間いただけですが、それでもわが家はにわかには活気づき、心地よい時間を過ごすことができました。

ふたりが帰ってきたのは連休の初日です。帰ってくる時間帯には私は仕事でいませんでした。妻はあらかじめ次男と連絡をとり、一緒に柏崎に出かける約束をしていました。柏崎の祖父母に結婚の報告をし、お礼の挨拶をしていくことが目的だったのですが、おもしろいことに若夫婦よりも妻の方が張り切っていました。

柏崎からなかなか帰ってこないで妻のところへ電話をして、「何時ころ帰る？」とたずねたら、「まだ一時間はいらんじやない。あんたは来ないの」といった調子です。後で聞くと、次男夫婦が持ち込んだ結婚式などのアルバムで話がはずみ、柏崎の母が私たち夫婦の三十数年前の写真まで持ち出したということでした。「髪はふさふさ、スマートだったのが信じられない」「子どもと似ているわね」などと妻が言っていたことから推察すると、話題の中心はいつの間にか、若いふたりのことから私になつたようです。やはや、やはや……。

次男夫婦と妻が戻ってきたのはそれから二時間ほど経ってから。私は事務所で仕事中でした。次男は戸を開けて、「ただいま」とひとこと言っただけで帰りました。白いポロシャツと黒のジーンズ姿は健康そのものです。その姿を見ただけでホットな気持ちになりました。

妻が次男と話をしている間、私は嫁さんを相手に周りの自然の案内役をしました。町場に住んでいた人なので、牛舎の周りには珍しいものばかりです。まずは細い竹です。道のそばには父が植えた黒竹があり、最近、どんどん増えています。竹を引つ張って見せると、興味深そうに見つめていました。次は、むかご。これも道沿いにたくさんあります。いくつかをもち取って、食べてみるようにと勧めました。口に入れても「何だろう」という顔をしているので、「山芋の実だよ。トロツとしているでしょ」と教えると「うちの父は山芋掘りをするんです」。嫁さんとはこれまで、ほんの少ししか言葉を交わしたことがなかったのに、会話は楽しく続きました。

この日、母もまた次男夫婦を待っていました。次男が結婚後、家を離れて住むことになり、一番さみしがったのは母でした。「ゲンちゃんいなくなって、おら、はらいね」と何度も言いました。母にとって、次男はどこへ行くにも三輪自転車のかごに入れて子守りをした大事な孫です。家に帰れば、うまいものを食べさせてやりたい、何か持たせたい。ずっとそう思っていました。

母はこの日、次男夫婦にぜひ食べてもらいたいと思うものがありました。押し寿司です。ヒジキ、ニンジン、でんぶ、かんぴょうなどを乗せた押し寿司は家族みんなに長年親しまれてきた味で、母の得意料理のひとつです。時間がなくて、家ではふたりに食べてもらえませんでした。嫁さんが実家に持って行ってくれました。もちろん、母は大喜びでした。

数十年前、遠くに住んでいた頃、親が住んでいる家に帰るのはとても楽しみでした。それが、この年になったら、家で子を待つ立場になりました。わが子は巣立ちをしても気になります。旅に出たツバメが戻ってきた時と同じように、帰省した子どもが元気な姿を見せてくれるのがこんなにもうれしいことだとは思いませんでした。

石綿セメント管の残延長は 8万525メートルに

上越市ガス水道局は平成20年度の水道事業会計決算認定及び簡易水道事業会計決算認定の審査にあたって、石綿セメント管の更新状況を明らかにしました。

それによると、昨年度末の段階で、石綿セメント管が残っているのは、吉川区の4万8822メートルがトップで、市内の未更新総延長は8万525メートルであるということです。

石綿セメント管更新状況

区名	20年度末残延長
柿崎区	925m
頸城区	1,004m
吉川区	48,822m
板倉区	309m
清里区	1,693m
三和区	7,649m
安塚区	20,058m
名立区	65m
合計	80,525m

市議会建設企業常任委員会では、「前倒

しをしてでも、もっと急ぐべきだ」等の声が上がっていましたが、担当課長は、「昨年度の当初計画では8609メートルの更新予定（水道事業会計分）だったが、入札差金などを活用して1万1737メートル（同）更新した。前倒しまではには至らなかった」とのべるにとどまりました。

左表には合併前上越市、大潟区中郷区、大島区はありませんが、いずれも石綿セメント管はゼロとなっています。

吉川、くろかわ診療所の開設状況

昨年度の市立診療所の開設状況が明らかにされました。市内には、谷浜、牧、くろかわ、吉川、寺野、清里の6つの診療所がありますが、谷浜診療所については昨年度で廃止されています。

くろかわ診療所については、診療日は241日で、外来延患者数は1万1329人（1日平均47人）。吉川診療所は、診療日が239日、延患者数は1万4781人（1日平均62人）となっています。他の診療所については紙面の都合上、掲載できませんが、吉川、くろかわ診療所は延患者数、1日あたり患者数とも多



川崎地内での工事